



Title	コンピュータによる文献資料の分析方法：「エッダ詩集」の動詞を材料として
Author(s)	堀井, 祐介
Citation	IDUN. 1992, 10, p. 175-194
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95830
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

コンピュータによる 文献資料の分析方法 — 「エッダ詩集」の動詞を材料として —

堀 井 祐 介

I. はじめに

古代ゲルマン民族の持っていた神話の世界は、これまでも様々な方法によって明らかにされてきているが、本稿ではコンピュータを用いて現存する文献資料を分析することによってその神話世界を解明していく。対象とする文献資料は Edda（「エッダ詩集」 または「古エッダ」、「詩のエッダ」とも呼ばれる）である。Edda は比較言語学的にはゲルマン語族の北ゲルマン語に属する古西ノルド語で書かれた韻文作品集で、1662年にアイスランドの司教 Brynjólfur Sveinsson が当時のデンマーク王 Frederik 3 世に献上した写本（Codex Regius 「王の写本」）を中心にその他いくつかの写本によって今日まで伝えられている。作品の原型はすでに民族大移動の頃より存在していたものと思われる。¹⁾ 現存する古西ノルド語で書かれたものは紀元9世紀から13世紀初頭の間成立したとされている。²⁾ Edda は主として神話詩と英雄詩の2つのグループから成り立っており、一般にゲルマン神話（北欧神話）を語る上での第一次資料とされるものである。

従来の神話研究においては、神々や英雄、巨人という神話世界の主人公について Edda を分析することによって様々な特徴が指摘されてきた。しかしそれらは主として名詞句に焦点を当てて行われているか、または作品全体を一まとまりとして、そこから登場人物の

特徴が導き出されている。しかし本稿では Edda に出てくる動詞に注目し、神々や英雄、巨人たちが主語としてあるいは目的語としてどのような動詞と関わっているかを調べてみる。

本稿では、原文テキストとして Helgason 1971 を用いたが、この刊本には、神話詩14作品+断片、英雄詩9作品+断片が収められており、これらは神話研究における第一次資料となる作品である。³⁾

II. 作業手順

実際の作業は以下に示す手順に従って行う。

1. 刊本に基づき、テキスト形式でデータを入力する。
2. 大阪大学言語文化言語工学研究室の言語情報処理システムを使用し、コンコーダンスを作成する。⁴⁾ (資料A参照)
3. コンコーダンスを利用して各単語の品詞を調べる。
4. 1で入力したテキストデータの動詞に*印を付ける。
5. データベースソフト dBXL に読み込める形に加工する。
(KWIC2 使用)⁵⁾
6. dBXL で動詞データベースを作成する。⁶⁾ (資料B参照)
7. 個々の動詞のデータに主語、目的語などを加える。
8. 動詞を分類し、統計処理にかける。
9. 統計処理の結果に対して考察を加える。

III. 動詞分析方法

dBXL で作成した動詞データベースの各項目について説明する。

WORD	見出し語 (動詞)
PLACE	出現する作品名, 節, 行
MEANING	出現する節における意味

SUBJECT	主語（以下，S.と略す）
S.TYPE	文中における主語の種類 nominative（主格位置に来ている） objective（目的格位置に来ている） 例：hón sá <u>Hapt</u> liggia. context（明示されていないが，文脈から分かるもの）
S.CATEGORY	主語のカテゴリー g(m/f, a/v) : 神々（男性／女性，アース／ヴァン） s : 超存在 ⁷⁾ h(m/f) : 英雄（王の一族，英雄とみなされている者，男性／女性） j(m/f) : 巨人（男性／女性） d(m/f) : 侏儒（男性／女性） m(m/f) : 人間（男性／女性） v(f) : ヴァルキュリャ（女性のみ） n(f) : ノルン（女性のみ） a(l/d) : アールヴ（光／闇） gd : 神々の動物 hd : 英雄の動物 jd : 巨人の動物 gt : 神々の従者 ht : 英雄の従者 jt : 巨人の従者 o(w/n, g/h/j) : その他（有意志／無意志，神々／英雄／巨人にそれぞれ属する） x : 上記の分類に入らない文法的要素（節，句，不定代名詞など） up : 非人称，主語無し構文
S.PERSON	主語の人称，数 1s, 2s, 3s, 1p, 2p, 3p（人称，s 単数／p 複数） x（非人称，主語無し，主語が特定できない場合）

OBJECT	目的語（以下，O.と略す） （厳密には目的語でないものも含む，補語・具格など） 複合形の前置詞に支配されるものも含む 例：dæma um ____ 出現する形と具体的に何を指しているかを示す （節の場合，at+，hverr+ のように示す）
O.CATEGORY	目的語，補語のカテゴリー S.CATEGORY に準じる c 補語 adj 形容詞 adv 副詞
O.PERSON	目的語の人称，数 1s, 2s, 3s, 1p, 2p, 3p （人称，s 単数／p 複数） x （節，補語の場合）
O.CASE	目的語の格 複数あれば全て示す accusative 対格 dative 与格 genitive 属格 x （節，補語の場合）
INFINITIVE	見出し語（動詞）の不定詞形
COMPLEX	前置詞，副詞との複合動詞かどうか
MEANING	意味のカテゴリー ⁸⁾
CATEGORY	○二者（動作の主体と対象）の関係 1. 物理的働きかけ 2. ある対象を指しての感覚・感情の動き 3. 創る行為 4. 対面，あるいは対象に対する態度 5. 相互動作 ○移動・変化 6. 移動－1（出る）

- 7. 移動－2（通る）
- 8. 移動－3（入る，着く，泊まる）
- 9. 行く，来る，帰る，戻る
- 10. 変化（なる）

- 11. 働きかけと移動の複合（入れる）
- 12. 働きかけと変化の複合（変える）

○授受

- 13. 授受－1（与える）
- 14. 授受－2（受ける）
- 15. 命じる

○感情

- 16. 一時的な気の動き
- 17. 能動的な心の動き，積極的感情の発動
- 18. 感情の直接的表出
- 19. 感情的品定め

○存在

- 20. 出来事の発生
- 21. 物理的存在
- 22. 所有，所属的存在
- 23. 部分集合，または種類の存在

○性状規定

- 24. 何かに対する性状
- 25. 相対的性状
- 26. 絶対的性状

27. 判断措定

○コトを含むコト⁹⁾

- 28. 感覚作用
- 29. 思考作用
- 30. 発話行為

- 31. 自発
- 32. 使役
- 33. 呼ばれる ("be named")
- 40. 完了
- 50. 受け身を作る
- 60. 冗語的挿入

○法の助動詞

- 71. 義務
- 72. 必要性
- 73. 運命
- 74. 命令
- 75. 「まさに～する」
- 76. 未来
- 77. 推量
- 78. 想像, 非現実
- 79. 可能
- 80. 能力
- 81. 許可
- 82. 意志, 願望
- 83. 「敢えて～する」

○願望法

現在

- 91. 願望
- 92. 要求, 命令
- 93. 譲歩
- 94. 疑いのある提案 (疑問文のみ)

過去

- 95. 「考えられる, 可能性のある」 (potential)

FORM

出現する形

infinitive	不定詞形
present	現在形
preterite	過去形

	present participle	現在分詞
	past participle	過去分詞
	past participle pp	” (受け身)
	past participle ps	” (完了分詞)
	past participle po	” (目的語対応)
	x (命令法)	
TENSE	時制	
	present	現在時制
	preterite	過去時制
	future	未来時制
	present perfect	現在完了時制
	past perfect	過去完了時制
	x (接続法, 現在分詞, 複合形の本動詞, 不定詞形)	
MOOD	法 ¹⁰⁾	
	indicative	直說法
	optative present	願望法現在
	optative preterite	願望法過去
	imperative	命令法
	x (複合形の本動詞, 不定詞形)	
VI/VT	自動詞／他動詞	
	intransitive	自動詞
	transitive	他動詞
	x (助動詞, 受け身, 完了など)	
Reflexive	形態上再帰形 ¹¹⁾	
Form	reflexive	再帰
	reciprocal	相互受動 「～しあう」
	inchoative	起動 「～になる」
	passive	受け身
	x (ない場合)	
AUX	助動詞	
	aux	助動詞として機能
	main	本動詞として機能

COMB	他の動詞と結び付いている 完了，受け身など他の動詞と結び付いて一つの動詞句 を形成 x（ない場合）
ENCLITIC	前接語 -at, -ak, -tu etc. x（ない場合）

対象となる動詞の出現する行

TEXT-2	出現する行 - 2
TEXT-1	” - 1
TEXT	”
TEXT+1	” + 1
TEXT+2	” + 2

本稿執筆時点では，II章に示した作業のうち7までは終了し，分析対象とする動詞の数は以下ようになった．(略号は資料C参照)

VSP	311	VKV	257
HAV	1048	HH-I	261
VM	256	HHV	407
GRM	323	HH-II	447
SKM	219	SF	63
HRBL	272	GRP	332
HYM	176	RM	270
LS	413	FM	307
TRK	170	SD	279
ALV	164	VS	12
BDR	91	SS	2
RT	276		
HDL	231		
GRT	131		
SnEG	24		
SnES	11		
SnEFRG	1		
神話詩	4117	英雄詩	2637

合計 6754

データ数値 (神話詩／英雄詩)

Complex : x 3483/2148

Meaning Category :

V.C.1	1135/714	V.C.2	535/368
V.C.3	356/222	V.C.4	303/161
V.C.5	197/168	V.C.6	242/127
V.C.7	305/169	V.C.8	325/156
V.C.9	305/182	V.C.10	84/43
V.C.11	118/103	V.C.12	135/103
V.C.13	112/101	V.C.14	162/69
V.C.15	26/43	V.C.16	3/1
V.C.17	6/7	V.C.18	0/8
V.C.19	0/1	V.C.20	14/20
V.C.21	178/137	V.C.22	99/71
V.C.23	0/0	V.C.24	30/34
V.C.25	95/88	V.C.26	82/11
V.C.27	189/110	V.C.28	246/72
V.C.29	118/69	V.C.30	209/169
V.C.31	275/115	V.C.32	29/36
V.C.33	94/52		
V.C.40	87/106	V.C.50	95/63
V.C.60	13/7		
V.C.71	125/85	V.C.72	21/1
V.C.73	22/7	V.C.74	10/3
V.C.75	11/1	V.C.76	135/88
V.C.77	19/7	V.C.78	13/6
V.C.79	28/14	V.C.80	19/19
V.C.81	4/4	V.C.82	45/39
V.C.83	3/3		
V.C.91	51/15	V.C.92	47/23

V.C.93	115/56	V.C.94	0/0
V.C.95	89/73		

Form :

infinitive	655/431
present	1919/886
preterite	1142/1008
present participle	31/12
past participle	253/220
past participle pp	131/97
past participle po	13/21
past participle ps	55/67

Tense :

present	1538/665
preterite	1031/909
future	142/117
present perfect	53/56
past perfect	27/28

Mood :

indicative	2773/1720
optative present	213/95
optative preterite	86/70
imperative	141/88

VI/VT :

intransitive	1449/854
transitive	2102/1378

Reflexive Form :

reflexive	51/43	reciprocal	22/13
inchoative	3/1	passive	8/7

Aux :

aux	563/403	main	3547/2233
-----	---------	------	-----------

Comb :

x	2613/1561
---	-----------

Enclitic :

x	3784/2467
---	-----------

主語

S.Type :

n	3175/2061	o	102/78
c	431/215		

S.Category :

g	36/8	ga	103/2
gjm	185/20	gma	924/51
gfa	42/0	gm v	60/0
gfv	72/0	s	82/14
h	6/19	hm	174/1250
hf	3/98	j	35/0
jm	146/11	jf	208/37
d	56/175	m	609/28
mm	97/15	mf	58/1
v	136/231	n	10/18
a	8/0	al	0/0
ad	0/0	gd	58/9
hd	0/10	jd	46/5
gt	107/0	ht	6/26
jt	8/0	on	476/312
ong	119/9	onh	4/32
onj	21/0	ow	20/0

owg	3/0	owh	0/0
owj	0/0	x	363/267
up	36/23		

S.Person :

ls	557/256	2s	632/426	3s	1983/1334
lp	82/40	2p	23/40	3p	621/370
x	208/168				

目的語，補語

O.Category :

g	268/0	ga	40/2
gjm	65/3	gma	247/10
gfa	9/0	gmV	32/0
gfv	22/0	s	21/3
h	44/9	hm	75/421
hf	3/65	j	245/138
jm	61/6	jf	61/14
d	5/65	m	12/7
mm	14/7	mf	27/1
v	132/78	n	1/0
a	4/1	al	0/0
ad	0/0	gd	16/5
hd	0/9	jd	22/4
gt	21/0	ht	0/7
jt	1/0	on	1012/868
ong	240/31	onh	10/55
onj	69/2	ow	2/0
owg	0/0	owh	0/0
owj	1/0	x	1798/1024
c	229/159	adj	242/140
adv	89/36		

O. Person :

1s	171/72	2s	178/115	3s	1512/1091
1p	8/11	2p	1/1	3p	499/402
x	2287/1318				

O. Case :

a	1335/894	d	898/677
g	135/130	x	2243/1312

Ⅳ. まとめ

現在のところ入力終了直後のデータのため、具体的な分析はできない。しかし動詞のカテゴリーについてみると、数は少ないながら、感情を表す動詞のカテゴリー（V.C.16～V.C.19）は英雄詩の方に多く、より人間的な描写が行われていることを示唆している。また完了表現（V.C.40）が神話詩よりも英雄詩において高い割合で用いられていることも注目に値する。より詳しくは1991年度の修士論文において、作品別、主語別に動詞分析を行い、神々や英雄の行動が動詞によって特徴づけられているのかについて考察を加える予定である。

(1991.09.30)

注

- (1) Bæksted 1984 : 24.
- (2) Kristjánsson 1988 : 28.
- (3) Helgason 1971 断片には Snorri Sturluson *Edda* (Holtmark & Helgason 1976) 及び *Völsunga saga*, *Sverris saga* からの韻文を含む.
- (4) 大阪大学大学院言語文化研究科言語情報科学講座 三木邦弘助手作成のプログラム.
- (5) 同上.
- (6) dBLX は (株)サザン・パシフィック社のデータベースソフト.
- (7) *völva*, *Yggdrasill*, *Mimir* など神族ではないが特殊な力を持つとされるもの.
- (8) 寺村 1982 : 87ff. の分類を中心に, 独自の分類を加えたもの.
1~30 は寺村の分類による番号, 31 以降は著者が独自に分類したものに便宜上, 番号を割り振った. 願望法 (91~95) の分類は *Norrøn grammatikk* 1975 に従った.
- (9) 一つのまとまった叙述内容を表すものを補語とするもの.
例: 人が 神が存在することを 信じる.
- (10) *Norrøn grammatikk* 1975 : 141ff. をもとに修正を加えた分類.
- (11) *Norrøn grammatikk* 1975 : 153f. の分類.

Filologi på computer

- Brugen af verber i Ældre Edda -

Yusuke Horii

Resumé

Den mytologiske verden, som urgermanerne troede på, er allerede undersøgt på mange forskellige måder. I den hidtidige

forskning har man karakteriseret guder, helte osv. ved hovedsageligt at fokusere på teksternes navneord. Her vil jeg forsøge at undersøge verberne i førstehåndskilderne ved at bruge computer. Jeg analyserer *Ældre Edda*, fordi det er den vigtigste kilde. *Ældre Edda* er et samlet værk, og dens hovedhåndskrift er Codex Regius fra slutningen af 13. årh., som blev skænket til den danske konge Frederik III. Eddadigtene er delt i to grupper, gude- og heltedigte.

Arbejdsproceduren er følgende:

1. Teksterne indskrives i computeren (efter Jón Helgasons udgave).
2. Konkordansen laves ved at bruge 'Language Information System' på Faculty of Language and Culture på Osaka University.
3. I konkordansen ordnes ordene i ordklasser.
4. Verberne mærkes med *.
5. Teksterne forberedes til dBXL (database soft-program).
6. En database over verberne laves i dBXL.
7. Forskellige elementer indskrives, fx: subjekt, objekt og verbernes betydningsindhold, modus, tempus.
8. Verberne ordnes i grupper efter betydningsindhold.
9. Alle resultater under punkt 8 undersøges.

Ved denne artikels færdiggørelse er jeg lige færdig med at indlæse alle elementerne, dvs. midt i procedure 7. Som følge heraf kan jeg endnu ikke sige noget bestemt om resultatet af mit arbejde. Men om de rå data kan man allerede påpege noget, som er specielt for henholdsvis guder og helte. Nu skal jeg gennemse alle dataene og vil forsøge at finde særtræk i brugen af verber i *Ældre Edda*.

資料及び参考文献

- Bæksted, Anders. 1984. *Nordiske Guder og Helte*.
Politikens Forlag. København.
- Craigie, Sir William, A. 1982. *An Icelandic-English Dictionary*.
Clarendon Press. Oxford.
- Gering, Hugo. 1903. *Vollständiges Wörterbuch zu den Liedern der Edda*. Reprint 1971. Georg Olms Verlag. Hildesheim.
- Hanssen, Eskil; Mundal, Else; Skadberg, Kåre. 1975.
Norrøn grammatikk. Universitetsforlaget. Oslo.
- Heggstad, Leiv; Hødnebo, Finn; Simensen, Erik. 1975. *Norrøn ordbok*. Det Norske Samlaget. Oslo.
- Helgason, Jón. 1971. *Eddadigte I - III*. Ejnar Munksgaard.
København.
- Holtmark, Anne & Helgason, Jón. 1976. *Snorri Sturluson Edda*.
Ejnar Munksgaard. København.
- Kristjánsson, Jónas. 1988. *Eddas and Sagas*.
Translated by Peter Foote. Hið íslenska bókmentafélag.
Reykjavík.
- 寺村秀夫 1982. 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版

資料

A. コンコードانس

aka (2)			
TRK.12.7.VG	Freyia, / brúðar líni! / vit skolom	aka	tvau / í iqtunheima.) / Reið varð
TRK.20.5.VG	með þér / ambótt vera, / vit skolom	aka	tvau / í iqtunheima!) / Senn vöro
aki (1)			
HAV.90.3.VG	kvenna, / þeira er flátt hyggja, / sem	aki	ið óbryddom / á ísi hállom, /
ákka (1)			
FM.2.4.VH	inn móðurlausi mögr; / fœður ek	ákka	/ sem fira synir, / <æ> geng ek einn
akra (1)			
RT.12.11.VG	Lútr ok Leggjaldi, / logðu garða, /	akra	töddu, / unnu at svinum, / geita
akrar (1)			
VSP.62.2.VG	áttar höfðo. / Muno ósánnir /	akrar	vaxa, / bóls mun allz batna, / Baldr
akri (2)			
HAV.88.1.VG	völo vilmeli, / val nýfældom, /	Akri	ársánnom / trúi engi maðr, / né
HAV.88.4.VG	né til snemma synir / veðr ræðr	akri,	/ en vit syni, / hett er þeira
al (1)			
RH.11.1.VH	fœður missi, / hefna hlýra harms!) / (	Al	þú þó dóttur, kvað Hreiðmarr, /
ala (1)			
HAV.48.3.VG	menn bazi lifa, / sialdan sú	ala;	/ en ósniallr maðr / uggir hotvatna,
álar (1)			
LS.62.4.VG	þóttu hetir hamri mæ; / skarpar	álar	/ þóttu þér Skrýmis vera, / ok
alax (3)			
VH.45.6.VG	sér at mat hafa; / þaðan af aldir	alaz.	/ fiqlð ek fór, / fiqlð ek
VH.49.6.VG	í heimi ero, / þó þær með iqtinom	alaz.	/ fiqlð ek fór, / fiqlð ek
GRM.18.6.VG	þat fáir vito, / <við> hvat einheriar	alaz.	/ Gera ok Freka / seðr gunntamiðr,
alda (16)			
VSP.20.11.VG	þær log logðo, / þær líf kuro /	alda	þornom, / srlög saggia. / þat man
BDR.2.2.VG	ballir draumar. / Upp reis Óðinn, /	alda	gautr, / ok hann á Sleipni / soðul
LS.47.5.VG	Loki? / þvát ofdrykkia / veldr	alda	hveim, / er sína mægi ne manat. /
FM.10.5.VH	eina dags, / þvát eino sinni / skal	alda	hverr / fara til heliar heðan). / (
LS.8.5.VG	þvát æsir vito, / hveim þeir	alda	skolo / gambansumbl um geta. / Hantu
ALV.25.5.VG	hvé sá eldr heitir / er brenn fyr	alda	sonom / heimi hveriom í.) / (Eldr
ALV.9.5.VG	hvé sú iqrð heitir / er ligger fyr	alda	sonom / heimi hveriom í.) / (lqrð
ALV.27.5.VG	hvé <sá> viðr heitir / er vox fyr	alda	sonom / heimi hveriom í.) / (Viðr
FM.16.2.VH	móðo marlr. / Ógiahíðim / bar ok um	alda	sonom, / meðan ek um meniom lág; /
HAV.12.3.VG	Éra svá gott, / som gott kvoða, / ql	alda	sonom; / þvát færa veit, / er
ALV.31.5.VG	hvé þat sáð heitir / er sá	alda	synir / heimi hveriom í.) / (Bygg
ALV.33.5.VG	hvé þat ql heitir / er drekka	alda	synir / heimi hveriom í.) / (Ql
ALV.15.5.VG	hvé sú sál heitir / er siá	alda	synir, / heimi hveriom í.) / (Sól
HH-1.1.1.VH	þeira ok H. Volsungakviða. / Ár var	alda	/ þat er arar gullo, / hnigo heilög
HAV.107.6.VG	Óðrerir / er nú upp kominn / á	alda	vés iardar. / lfi er mæð á, / at
VSP.3.1.VG	mæran / fyr mold neðan. / Ár var	alda,	/ þær er Ymir byggði, / vara sandr
aldafœðr (2)			
VH.4.5.VG	æði þær dugi, / hvars þú skalt,	Aldafœðr,	/ orðom mæla iqtun. / Fór
VH.53.2.VG	er riðfæz regin? / Ólfr gleypa / mun	Aldafœðr,	/ þess mun Viðarr <v>erka; .
aldr (4)			
LS.21.4.VG	fær þær Geflon at gremi, / þvát	aldr	srlög / bygg ek at hön qll um
HH-11.41.3.VH	avik ein / er þú siá þikkiz, / né	aldr	rof, / þóltu oss litir, / þótt
HAV.32.4.VG	gagnhoillir, / en at virði <v>rekaz; /	aldr	rög / þat mun æ vera, / órir
VH.39.4.VG	ok seido at gíslingo goðum; / í	aldr	ræk / hann mun uptr koma / heim með

B. データベース

```

Word      [biWd          ]
Place     [VSP 1.1.VG          ]
Meaning   [要求する          ]

Subject   [ek(v@olva)          ]
S.Type    [n          ] S.Category [s          ] S.Person [1s]

Object    [allar <helgar> kindir, m@ogo Heimdalar / hli%oWds          ]
O.Category [g, m/ on          ] O.Person [3p/ 3s          ] O.Case [a/ g          ]

Verb
Infinitive [biWdja          ] Complex [x          ]
V.Category [15          ] Form [pres          ] Tense [pres          ]
Mood       [ind          ] Vi/Vt [t          ] Medio-Passive [x          ]
Aux        [m          ] Comb [x          ]
Affix      [x          ]

TEXT-2
TEXT-1
TEXT      Hli%oWds *biWd ek allar
TEXT+1    <helgar> kindir,
TEXT+2    meiri ok minni,

```

C . 作品名省略形一覧

VSP	Völuspá	VKV	Völundarkviða
HAV	Hávamál	HH-I	Helgakviða
VM	Vafþrúðnismál		Hundingsbana I
GRM	Grímnismál	HHV	Helgakviða
SKM	För Skírnis		Hiqrvarðssonar
HRBL	Hárbarðslióð	HH-II	Helgakviða
HYM	Hymiskviða		Hundingsbana II
LS	Lokasenna	SF	Frá dauða Sinfíotla
TRK	Prymskviða	GRP	Grípisspá
ALV	Alvíssmál	RM	Reginismál
BDR	Baldrs draumar	FM	Fáfnismál
RT	Rígsþula	SD	Sigrdrífumál
HDL	Hyndluljóð	VS	Völsunga saga
GRT	Grottasöngur	SS	Sverris saga
SnEG	Snorri Sturluson Edda Gylfaginning		
SnES	Snorri Sturluson Edda Skáldskaparmál		
SnEFRG	Snorri Sturluson Edda fragment		